平和への願いを込めて

今 語りつぐ
戦争の体験

「港区戦争・戦災体験集」

平和への願いを込めて

今 語りつぐ
戦争の体験

「港区戦争・戦災体験集」

平和の女神（北村西望作）
港区役所庁舎前

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つこどもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

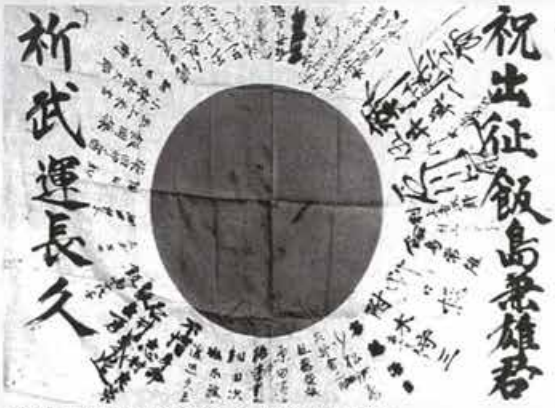
昭和60年８月15日

港　　区

戦争

出陣学徒壮行会　昭和18年10月31日　明治神宮外苑（提供：毎日新聞社）

木炭切符（提供：毎日新聞社）

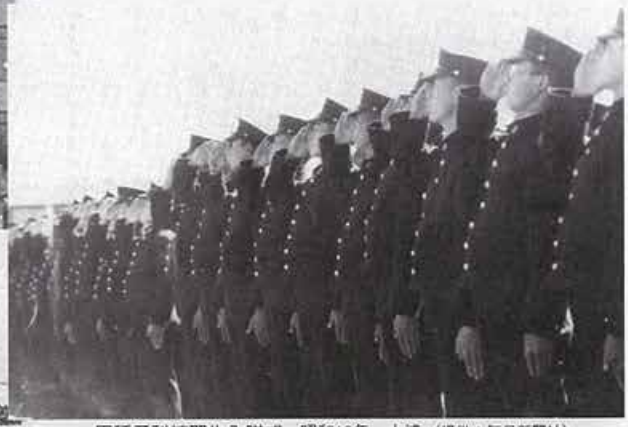


出征兵士に贈られた寄せ書き（提供：毎日新聞社）

詔勅集「帝国軍人」が持たされた詔勅集（提供：毎日新聞社）

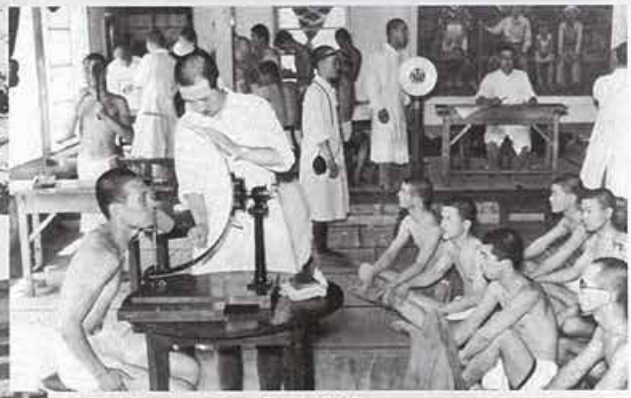
軍事郵便

麻布歩兵第三連隊〈提供：毎日新聞社〉

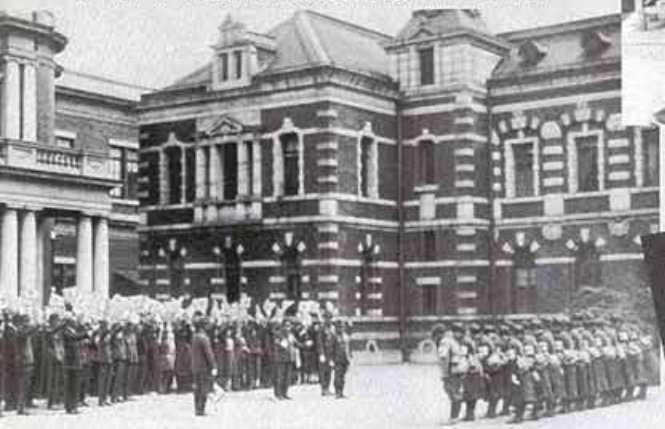


甲種予科練習生入隊式　昭和18年　土浦〈提供：毎日新聞社〉

真珠湾攻撃　昭和16年12月
パールハーバーに集結中のアメリカ太平洋艦隊〈提供：毎日新聞社〉

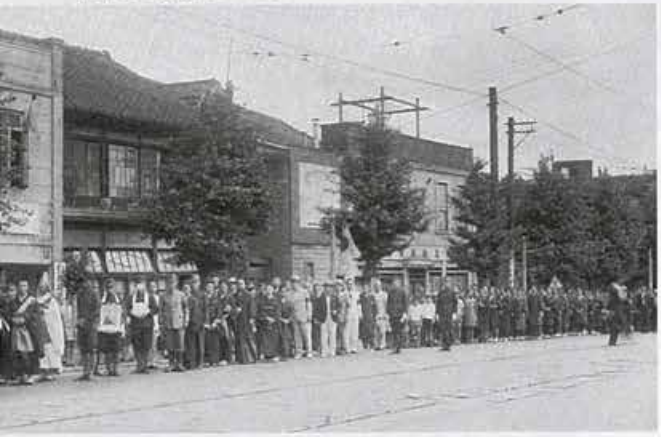


徴兵検査　昭和18年　身体検査
〈提供：毎日新聞社〉



出征する看護婦さんたち　昭和17年〈提供：毎日新聞社〉

防諜ポスター　昭和17年7月
〈提供：毎日新聞社〉



戦死者の葬儀　昭和18年
戦死者は、「英霊の帰還」として町会を挙げて会葬した。〈提供：羽山公さん〉

焼失証明書 〈提供：池田愛子さん〉

罹災証明書 〈提供：池田愛子さん〉

罹災者巡回相談所 昭和20年5月 〈提供：毎日新聞社〉

恩田孝徳氏が描いた廃虚

麻布十番通りを望む

三田・慶大前にて

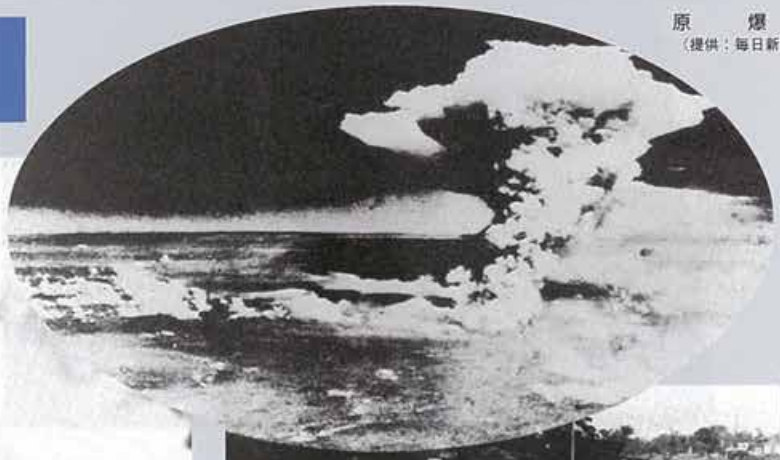
麻布六本木にて

雨の麻布古川橋にて

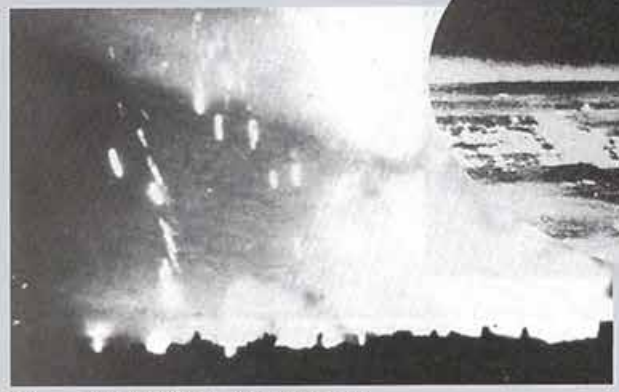
赤坂見附から青山へ

（提供：恩田耕一郎さん）

空襲・被災・疎開



原　　爆　広島
（提供：毎日新聞社）



空　　襲　昭和20年5月（提供：毎日新聞社）

戦災から完全にまぬがれたアメリカ大使館（提供：毎日新聞社）

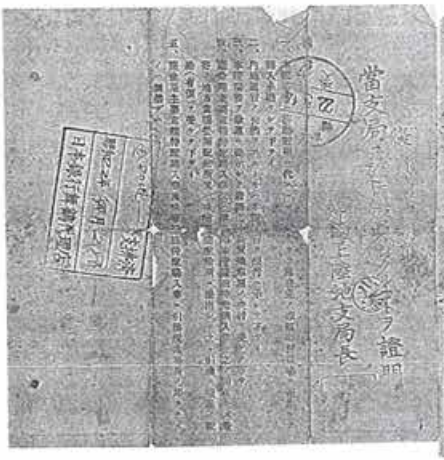
疎開先での朝礼（港区教育史資料から）

疎開地での授業（港区教育史資料から）

軍隊生活

〈提供：宮川修さん〉

〈提供：太田徳さん〉

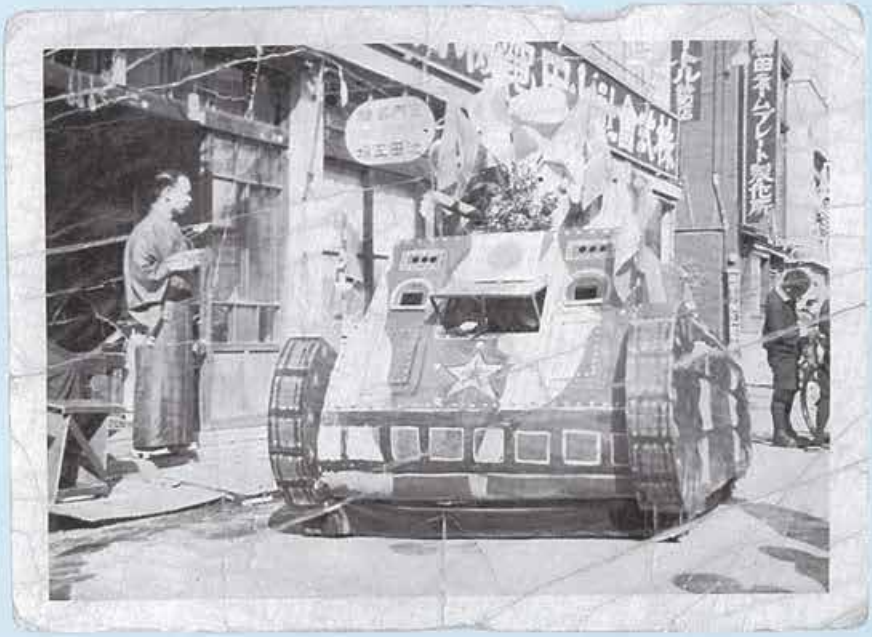


〈提供：大場一広さん〉

〈提供：大場一広さん〉

〈提供：太田徳さん〉

戦中・戦後の生活



〈提供：池田愛子さん〉

感謝狀

本會宣言趣旨ヲ體シ至誠獻身會務ニ盡瘁セラレ銃後奉公ニ貢獻セシ所勳カラス今回更ニ高度國防國家體制ニ即應シ大日本婦人會トシテ發足スルニ方リ衆心感謝奇ヲ表シ候也

昭和十七年一月一日

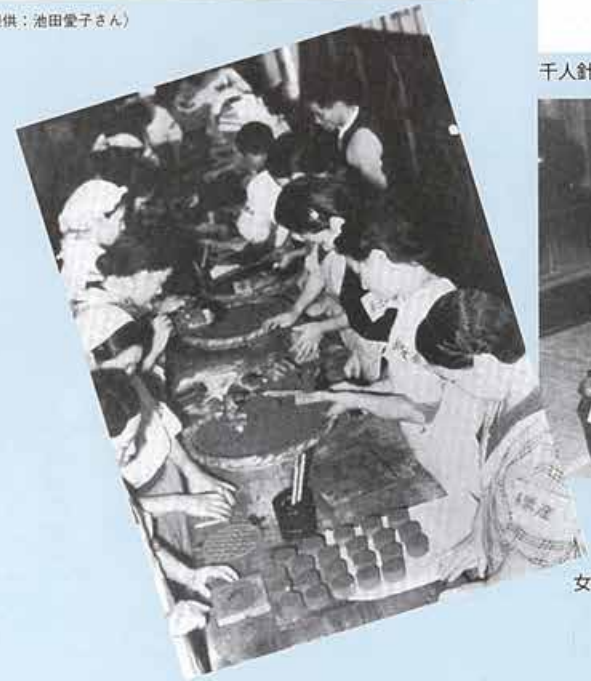
大日本國防婦人會大阪市連合會長 林 富喜子

大日本國防婦人會大阪市連合會副會長 芝木 婦子

大日本國防婦人會大阪鎮護隊隊長 池田あい子殿

〈提供：池田愛子さん〉

千人針の呼びかけ 〈提供：毎日新聞社〉



女子挺身隊 昭和17年
〈提供：毎日新聞社〉

茶道具献納 昭和16年11月
〈提供：毎日新聞社〉

日用品交換あっせん所　昭和20年〈提供：毎日新聞社〉

街頭農園　昭和19年〈提供：毎日新聞社〉

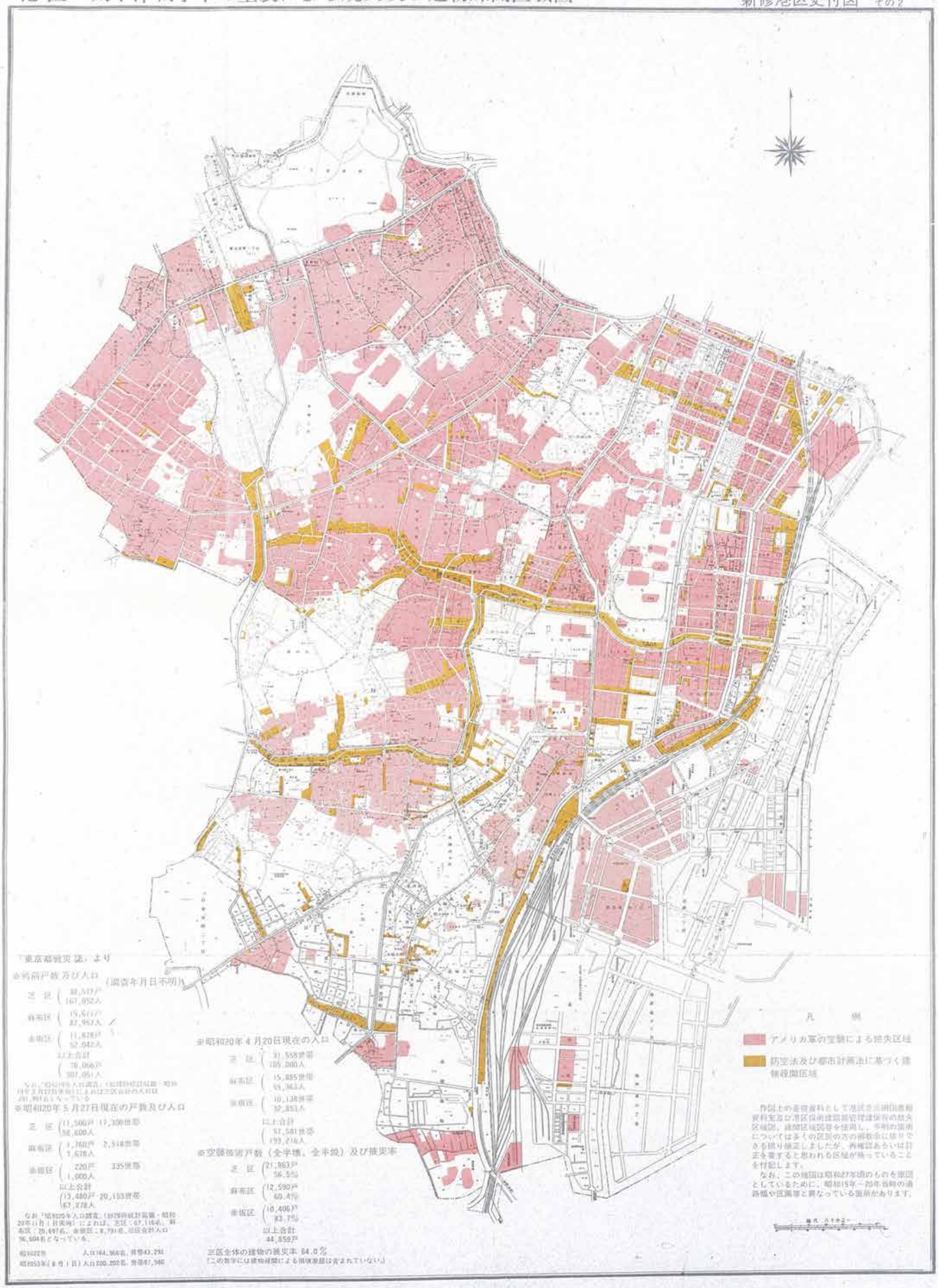
雑炊食堂　昭和19年5月〈提供：毎日新聞社〉

軍国調の菓子
ガスマスクやタンクの中にチョコレート、カブトの中にはキャラメルなどが詰められている。
〈提供：毎日新聞社〉

復　　興　昭和20年11月　被災後早くもバラックが建ち、生活が始まった。〈提供：毎日新聞社〉

港区　太平洋戦争中の空襲による焼失及び建物疎開区域図

新修港区史付図　その2



港区戦争・戦災体験集の発刊にあたって

港　区

港区は、昭和六十年八月十五日に「港区平和都市宣言」を行いました。以来、原爆被爆展を毎年開催し、また青少年を広島平和祈念式典に派遣するなど、多くの平和事業を実施し、平和の実現に努力しています。

この度の「港区戦争・戦災体験集」は、「港区平和都市宣言」五周年事業として発刊するもので、区民の皆さんや港区内の事業所等に勤務している方、またかつて勤務していた方々の、戦争に関する貴重な体験をお寄せいただき一冊の本としたものです。

今日、戦後も四十五年を経過して、戦争の悲惨な体験をした人々が少なくなり、逆に戦争を知らない世代が増えてきています。中東の湾岸戦争で実際に人命が失われ、家財が焼失している光景をテレビが写し出しても、遠い過去の出来事か、他人のことのように感じられるかもしれません。しかし戦争を体験された方々の心痛は計りしれないと思います。

私たちは誰しも、平和を願っています。それなのに、なぜ戦争を繰り返すのでしょうか。かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。平和を維持し戦争を避けるためには、粘り強く〝りんごの木〟を植える努力をしていくことが大切です。

港区は、平和への祈りが現実のものとなるよう、実際の貴重な体験を記録として、後世に引き継いでいくことにしました。この「港区戦争・戦災体験集」が多くの人々に読まれ、永く伝えられることを願ってやみません。

そして、本書発行のため、いまだ忘れ得ないそれぞれの思いを一生懸命に書いて原稿をお寄せくださった方々、資料提供、編集にご協力いただきました方々に対して、心から感謝申し上げます。

編集にあたって

明治学院大学教授　橋本敏雄

日本が直接の当事国となって遂行した戦争が終ってからすでに四十六年の歳月が経過しています。決して短いとは言えない時の流れの中で、いわゆる「戦争を知らない世代」の人々の数は日本の人口の過半を優に越えています。言いかえれば、戦争を体験し、その実態を生身で知る人々がますます老い、少なくなっているということでしょう。

このことは一面大変喜ばしいことですが、他面、平和の尊さへの鋭敏な感性を鈍化させるおそれも孕んでいます。港区によるこの「戦争体験」の掘り起こしも、風化しつつある「戦争の忌まわしい記憶」を、体験者には今一度呼び起こしていただき、若い世代の人々にはその体験談に耳を傾けてもらうことによって、将来にわたる平和な世界構築のためにささやかな一石を積もうとする意図に出たものに違いありません。

地域におけるこのような試みはそれほど目新しいことではありませんが、戦争というものの全体的ないしは普遍的な認識とは別に、港区に住む人々にとっては、港区に住み生きてきた人々の体験だからこそ意義のある記録なのだと思います。寄せられたいくつもの「思い出」を読ませていただきながら、一人ひとりの生命が大切なのだという視点が、「平和」にとっても重い意味をもっているということを改めて痛感させられました。

忘却や風化にとっては十分過ぎる四十六年という時間も、平和な世界の建設には短か過ぎるのでしょうか。第二次世界大戦以後も、「朝鮮戦争」「ヴェトナム戦争」と、日本が深くかかわりあった戦争がありました。そして今また「湾岸戦争」です。人類はいまだ「平和のための戦争」という呪縛から脱け出せないでいるようです。

こうした戦争による犠牲者は、手記を通してもわかるように、いつも無垢の人々です。これらの手記が対象としている戦争についていえば、気の遠くなるような数の諸国民が、朝鮮・中国・東南アジア諸国等において犠牲になっていることも、私たち日本人は決して忘れてはならないでしょう。

本書に編まれた貴重な手記が、港区の住民のみなさん、とりわけ未来の確かな平和の守り手となるよう期待されている青少年のみなさんの心の中に届けられるよう念願してやみません。

凡例

一　本書に収録した体験記は、いずれも原文を尊重したが、編集の都合上、次のような補正をした。

(1)　漢字は、原則として常用漢字を用いたが、固有名詞・戦時用語などについては、常用漢字表にない漢字も用いた。かなづかい・送りがなについては、できるだけ現代かなづかいに改めた。

(2)　明らかな誤字・脱字・当て字は訂正し、句読点のないものには、これをほどこした。

(3)　段落のないもの、あるいは段落の極端に少ないものについては、原文を尊重しながら段落を設けた。

(4)　それぞれの体験記には表題をつけ、氏名・年齢を掲げた。なお、表題を指定してある場合は、これに従った。

(5)　枚数超過・内容重複などの場合は、原文の一部を削除したものもある。

(6)　記述については、原文尊重を原則としたため、当時使用されていた用語で不適切と思われる言葉についても、あえて原文のまま掲載した。

二　各体験記は、港区関係とそれ以外の内容とをわかりやすくするため各執筆者名に記号（◇印港区関係、◈印それ以外）を付して区別した。

●目　次●

口　絵
序
編集にあたって
凡　例

空襲・被災

忘れられない三人のひと　秋間菊枝……2
空襲の想い出　天野文夫……4
白衣の衛生兵　飯島勝太郎……6
三角巾に包まれた火消壺　池田かね子……8
艦載機の襲撃を受けた怖さ　石上秀雄……10
焼野原と家族　梅澤清……12
川にとびこんだひと　瓜阪恭博……14
生涯三度の火災―瞬に焼きついた空襲の火―　岡野君香……16
真夏の悪夢　小川勇……18
戦争への怒りを感じながら　恩田耕一郎……20
語りきれない戦争中の一コマ　恩田はるを子……22
東京空襲と私の体験　菅野太内……24
残された我が命　北村守……26
背中の火と赤ん坊　小宮りよ……28
戦火の夜の思い出　小宮山喜久……30
圧迫からの解放　佐藤一貫……34
この世の生き地獄　佐藤昌子……36
東京空襲と焼夷弾　渋井益夫……38
忘れ得ぬ三月十日の御成門　鈴木八重子……40
炎に追われて　立木一郎……42
紅蓮の炎から逃げて―三月十日の大空襲―　津田成一……44
東京大空襲の青春　西岡衛……46
焼夷弾と大根の思い出　野路六郎……48
霞町が半分残った　一ツ松多根……50
戦災体験の思い出　広田いと……52
あの夜、あの一コマ　廣畑美恵……56
サイレンと高松宮邸　文屋元次郎……58
命を救ってくれたハシゴ　御子柴孝一……60
芝公園を母と妹と夢中で逃げた、五月の大空襲　宮崎一二……62
若い命を失った娘さん　山本政東……64
空襲の中、炎上する増上寺仁王門　若山正夫……66

戦中・戦後の生活

戦争と家族　飯田正雄……70
食べものがなくて毎日並んだあの頃　池田愛子……72
明暗を感じた一日　伊奈修一……74

わが苦闘、十九歳の記録　猪瀬逸央……76
忘れられぬ私の青春　宇田川トシ子……80
終戦の思い出の中から　梅田義則……82
焼けあとの麻布十番で働いた私の戦後　岡野君香……84
満洲での体験―毎日いろんな方法でにげた―　川崎キヨコ……86
勤労動員　菅野太内……88
病院で働いて　五味澄子……90
嬉しかった玉音放送　坂井かね……92
異郷での終戦前後　佐野正雄……94
少年兵からの伝言　佐野正雄……96
あの年の三月から五月まで―麻布での戦争体験―　鈴木久吉……98
私の戦中・戦後　関根政治……100
すべてが戦場だった、あの頃　多田佐智子……102
戦後の暮らし　多田佐智子……104
戦後の社会復興について　田高勇一……106
第二次世界大戦の工場内体験記録　田高勇一……108
若き日の記録　田所久……110
兄の出征　中井春子……112
学生服での入隊　西村正次……114
変わり果てた六本木の街　羽山公……116
東京も激戦地だった　久松安……118
防空訓練の日々　久松安……120
終戦前後の頃　平出和……122
人事を尽くして天命を待つ　藤井茂……126
戦争はいや　藤森ふさ子……128
モンペ姿でむかえた女学校入学式　古澤房子……132
戦時中の勤労動員と日常生活　堀利晃……134
機銃掃射、終戦、そして焼野原での生活　松永久子……136
乃木坂界隈・戦前・戦後　丸尾穂積……138
暗かった夜からの解放　義煎貞子……140
四歳の時の戦争、戦後―初めてのチーズの味―　吉川慶子……142
恐怖の脱出行　渡部和雄……144

疎開・学校生活

学童疎開を顧みる　青木吉實……148
大戦下の氷川国民学校　浅野澄雄……150
疎開生活の悪戦苦闘　池田愛子……152
集団疎開までの青春　石井千枝子……154
防空壕にダイビング―疎開先での体験―　大川甚一……156
集団疎開の頃のこと　岸田芳郎……158
卒業してから四十四年後の卒業式　岸田林太郎……160
幼ない頃の戦争―リュックを背負い一人で田舎へ疎開―　越川綾子……162
一隅の碑　佐藤彪也……164
疎開児童を亡くして　竹本博好……166
疎開　田所久……168
娘への手紙　長澄子……170

戦場・軍隊

発車合図のベルの音　相原正治……174
行けども行けども　阿部倉国治……176
イラワジ会戦の敵襲　新井良平……178
インパール作戦の撤退　新井良平……180
兵役の義務　今澤榮三郎……182
思い出遠く限りなく―フィリピン北部ルソン島―　太田　徳……184
涙のダモイ（帰国）　大場一広……186
南十字星の下で　河合正雄……188
回想―戦いの日々―　熊谷直行……190
私の従軍体験　後藤宜久……192
戦艦霧島の最期　小林道雄……194
終戦の日の思い出　佐藤房夫……196
学徒出陣との出会い　斎藤　主……198
特別攻撃隊との出会い　斎藤　主……200
つらかった中国での軍隊生活　鈴木義光……202
忘れゆくときに　高橋長敏……204
私の軍隊体験　寺田　培……206
終戦は敗戦だった―日章旗焼却命令がでたあの日の思い出―　中谷静雄……210
日本の軍隊と戦争責任　長谷川　豊……212
私の昭和二十年八月十五日と「魔の四日間」　長谷川　豊……214
部隊玉砕の将兵を悼む　花田四郎……216
雨中の撤退、「タコ」が今でも両足に　春山巌雄……218
悲しい思い出―戦友の自殺―　春山巌雄……220
南島での栄養失調　藤井　茂……222
出征の記　細野和嘉夫……224
マラリヤと栄養失調　前沢勝吉……228
私は戦艦大和を見た　松浦英夫……230
十字砲火　松縄登吉……232
トング―鉄橋警備　松縄登吉……234
大東亜戦争に出征して　元島源俊……236
ある少年兵の死　森江桂造……238
北支戦線点描　吉村正太郎……240
三十三歳の一等兵　米山栄策……242

原爆体験

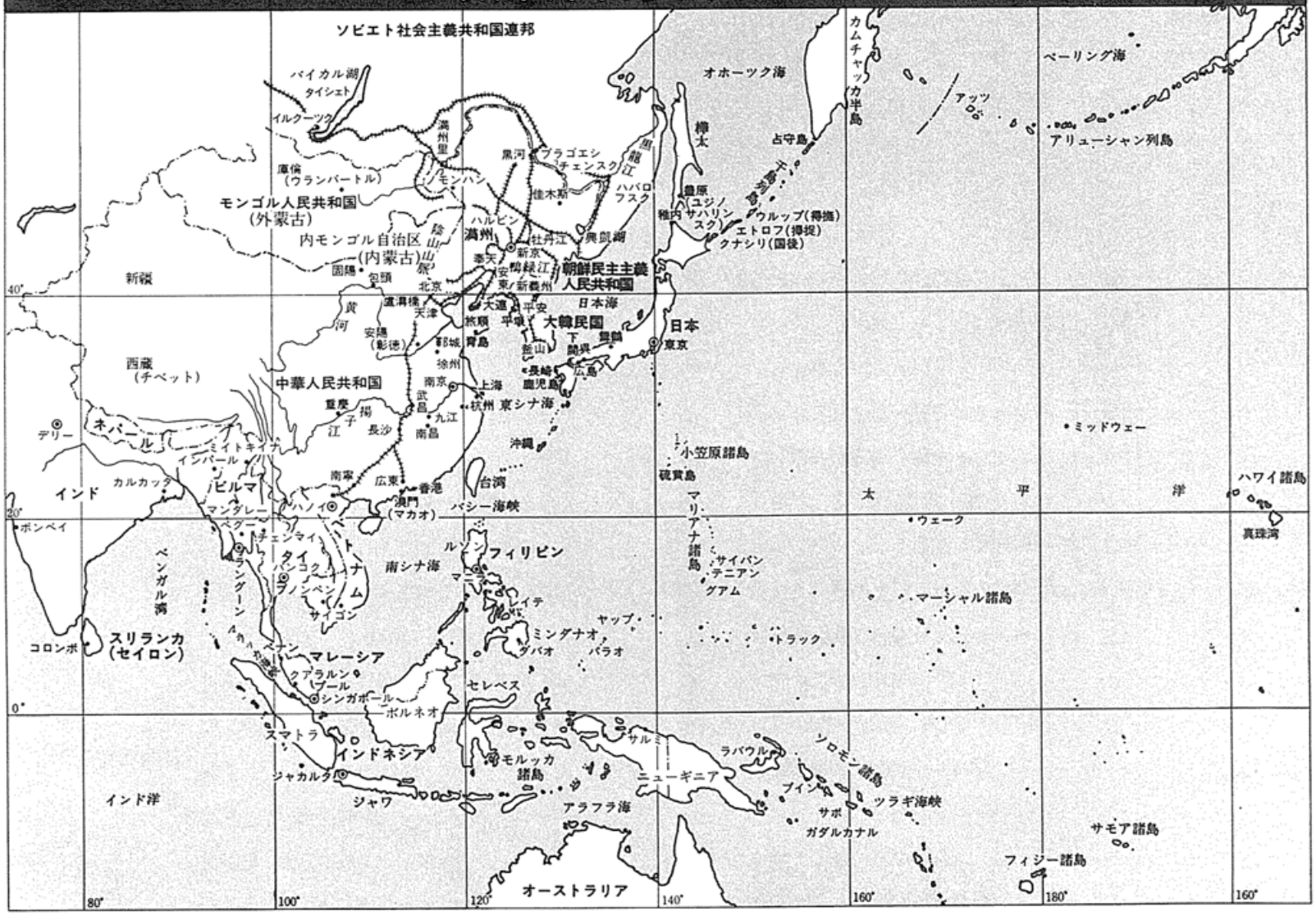
看護婦だった私の原爆体験　岩田絹子……246
閃光の恐怖　栗原廉之……248
終戦をむかえて―過去の責任、これからの責任を感じる―　皿井　治……250
原爆投下二日後の広島を歩いて　藤原四郎……252

戦争当時のこと

回想　今澤榮三郎……256
敗戦のコラージュ　遠藤平雄……258
敗戦四十五周年記　大村敬一……260

丁子は今どこに　岸田芳郎……262
戦塵寄譚　土屋利男……264
用語解説
編集後記

太平洋戦争関連地図


ソビエト社会主義共和国連邦
バイカル湖
タイシェト
イルクーツク
満州里
庫倫
(ウランバートル)
モンゴル人民共和国
(外蒙古)
内モンゴル自治区
(内蒙古)
新疆
固陽
包頭
黒河
ブラゴエシチェンスク
佳木斯
ハルビン
満州
牡丹江
興凱湖
新京
奉天
安東
鴨緑江
新義州
朝鮮民主主義人民共和国
北京
盧溝橋
天津
黄河
安陽
(彰德)
大連
旅順
平壌
平安
日本海
大韓民国
釜山
下関
豊鉄
日本
東京
郡城
青島
徐州
南京
上海
杭州
東シナ海
長崎
鹿児島
広島
西蔵
(チベット)
中華人民共和国
重慶
揚子江
長沙
武昌
九江
南昌
デリー
ネパール
ミイトキイナ
インパール
インド
カルカッタ
ビルマ
マンダレー
ハノイ
南寧
広東
香港
澳門
(マカオ)
台湾
バシー海峡
沖縄
ボンベイ
ベンガル湾
チェンマイ
タイ
バンコク
ラングーン
ラオス
ベトナム
サイゴン
南シナ海
ルソン
マニラ
フィリピン
レイテ
ミンダナオ
ダバオ
ヤップ
パラオ
コロンボ
スリランカ
(セイロン)
マレーシア
ペナン
クアラルンプール
シンガポール
セレベス
ボルネオ
スマトラ
インドネシア
ジャカルタ
ジャワ
インド洋
モルッカ諸島
サルミ
ニューギニア
アラフラ海
オーストラリア
ラバウル
ブイン
サボ
ガダルカナル
ソロモン諸島
ツラギ海峡
フィジー諸島
サモア諸島
オホーツク海
樺太
豊原
(ユジノサハリンスク)
稚内
占守島
千島列島
ウルップ(得撫)
エトロフ(択捉)
クナシリ(国後)
カムチャッカ半島
アッツ
ベーリング海
アリューシャン列島
小笠原諸島
硫黄島
マリアナ諸島
サイパン
テニアン
グアム
ウェーク
マーシャル諸島
トラック
太平洋
ハワイ諸島
真珠湾
ミッドウェー
40°
20°
0°
80°
100°
120°
140°
160°
180°
160°